
特集Ⅱ

高大接続のためのワークショップ「サマー・スクール2003」

サマー・スクールの実施による高大接続の 改善に関する基礎的開発研究（続）

村 上 隆* ・吉 田 俊 和* ・柴 田 好 章*
大 谷 尚* ・的 場 正 美* ・内 田 良**
坂 本 将 暢*** ・坂 本 剛*** ・小 池 はるか***
山 川 法 子*** ・中 田 有 紀*** ・難 波 久美子***
布 施 光 代*** ・安 達 仁 美**** ・世 古 篤****
朴 賢 晶****

1. 本プロジェクトの課題
 2. 本プロジェクトの経緯

1. 本プロジェクトの課題

名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部は、「教育と人間発達の問題の解決に取り組むことのできる人材を育成する」ことを教育に関するミッションとし、「人間の発達と成長に資する見識の高い指導的人材を育成する」ことを目標として掲げている。見識の高い指導的人材を育成するために、全国および諸外国の「高い志と優れた資質をもつ学生」を本研究科・学部に取り付け、選抜することが必要とされている。

しかし、高い志とは、具体的に、どのようなものであるのか、優れた資質とはどのようなものであるのか、その内容は教員の間、それぞれのイメージや考えはあるにしても、共通のイメージや一定の範囲での合意があるわけではない。また、共通のイメージや概念が形成されても、それをどのように入試として具体化し、評価するのか、緻密な検討が必要とされている。

一方、本学部を受験する学生が、本学部の教育内容を卒業後の進路について十分な情報をもって

-
- * 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
 - ** 日本学術振興会研究員
 - *** 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程
 - **** 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士前期課程

いることを前提にはできない。教員養成を主とする大学・学部とどのように教育内容や取得できる教職員免許状が異なるのか、文学部の心理学と本学部で講義される心理学とはどのように異なるのか、という質問が大学説明会においてよくなされる。受験する高校生の本学部に対するイメージや期待と本学部で提供する教育内容と卒業後の進路との間のミスマッチをできるだけ減少させるために、あらゆる機会と方法を通して、大学から高校生へ大学の教育内容に関する情報を提供することが必要となっている。

次に、高校における学びと大学における学びをどのようにつなぐかという課題が存在する。本学部の教育に関して述べると、本学部のカリキュラムを設計する上で、人間発達に関する基礎的な教育と導入をどのように改善すべきかという問題とこの課題は関連している。

第3に、選抜方法の開発と改善は、大学教育側に、常に存在する課題である。選抜方法の改善は、数年前までに高校側へ選抜方法に関する情報を伝える必要があり、3年以上前から、研究開発をする必要がある。これまでの教科の成績による評価、あるいは、論文と面接による評価だけでなく、多様な評価方法を開発する必要に迫られている。

以上の3つの課題に対する1つの実験的な試みが「サマー・スクールの実施による高大接続の改善に関する基礎的開発研究」である。

2. 本プロジェクトの経緯

本プロジェクトは、2000年度に村上隆により、教育学部全体としてAO入試に関する実験研究を実施する構想が立案されたことに基点がある。そののち、科学研究費補助金萌芽研究「高大接続の改善を目指す自薦型AO入試の基礎的開発研究」（研究代表：今津孝次郎）の一環として、2002年度と2003年度に本プロジェクトが実施された。その詳しい経緯については、「サマー・スクールの実施による高大接続の改善に関する基礎的開発研究」『中等教育研究センター紀要』（第3号〔2〕、2003年3月）に述べてある。

2002年度は「外国の学校について知ろう ―学校を手がかりとして国際理解―」、「学ぶ立場から教える立場へ ―人間形成の場としての授業―」、「観るということ ―心理学的なものの見方―」、「高校生を対象とした『人間の行動を考える』視点を養う教育実践」の4コースを実施した。また、サマー・スクールの事前、中間、事後にアンケート調査をし、分析をした。2003年度も同じタイトルになっているが、その内容は異なっている。

今回の工夫の1つに、異なった高校からの参加者が、うち解け、コミュニケーションをしやすい環境を作り出すために、アイスブレイキングを実施計画のなかに組み込んだことである。

なお、本プロジェクトには多くの教員と大学院学生および学術振興会研究員が関わった。本報告に執筆はしていないが、実質的関わった者の氏名を表題の次に掲載した。各コースの報告は、共同の作業であるが、執筆者の氏名を明記した。

サマー・スクールの案内は、2002年度に参加した生徒の所属する高校、過去2、3年以内に大学説明会に参加した生徒の所属する高校へ送付した。生徒にパンフレットを配布し、整理し、対応してくださった各高校の校長先生、教頭先生そして進路指導の先生には感謝申し上げます。

(的場 正美)